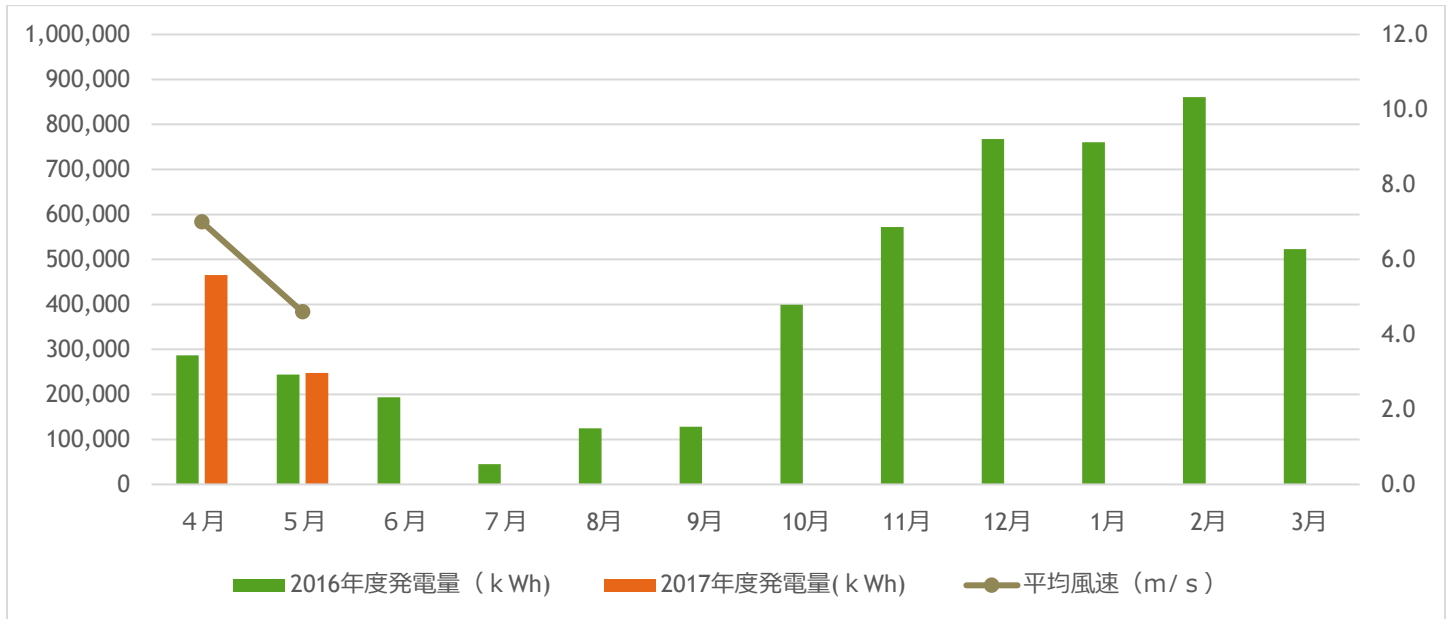


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 西村明子

## ● 発電実績



風況は昨年と比べると107.0%と良かったのですが、東北電力からの依頼による解列が6日間あり、発電量は昨年並みとなりました。

## ○にかほ市近辺の様子

田植えも終わり緑の濃い季節となっています。



にかほ市芹田地区の加工用トマトの苗も順調に育っています。

(撮影日6月1日。芹田自治会 荒川会長より)

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	465,321	7.0	92.6
5月	247,330	4.6	84.5
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

## 第9期社員総会を行いました。



社員総会であいさつする半澤代表

5月29日(月)、一般社団法人グリーンファンド秋田第9期社員総会を行いました。社員代表として、生活クラブ東京から赤坂禎博常勤理事、生活クラブ神奈川から桜井薫副理事長、生活クラブ埼玉から清水泉理事長、生活クラブ千葉から船水香理事、NPO 法人北海道グリーンファンドから鈴木亨理事長、株式会社市民風力発電から奥原正好事業開発部プロジェクト部長が出席しました。始めに半澤彰浩代表理事よりご挨拶がありました。

鈴木伸予事務局長より第1号議案として2016年度の事業活動報告と決算書類・剰余金処分につ

いて、第2号議案として第10期(2017年度)の事業計画及び予算案の承認の提案がされ、満場一致で可決となりました。第9期の年間発電量は冬季の風況のよい時期に順調に発電したため4,905,605kWhとなり、前年比107.7%となりました。また、「夢風ブランド品」の開発が進むなど、にかほ市との連携が一層進みました。

2017年度第10期は、夢風建設5周年イベントがにかほ市で行われます。また、「夢風ブランド」品の取組や、2018年度施行を目標ににかほ市で「(仮称)自然エネルギー導入による持続可能な地域づくりに関する条例」制定に向けて協議会や学習会などを行うなど、さらに連携を進める計画です。

本社員総会にて右記の表の方々役員に選任されました。理事の任期は11期定時社員総会まで、監事は13期定時社員総会までとなります。

理事	
生活クラブ生活協同組合東京	赤坂禎博 常勤理事
生活クラブ生活協同組合神奈川	半澤彰浩 専務理事
生活クラブ生活協同組合埼玉	須長雅和 常勤理事
生活クラブ生活協同組合千葉	山本裕一郎 常務理事
NPO 法人北海道グリーンファンド	鈴木亨 理事長
株式会社市民風力発電	奥原正好 事業開発部 PJ 担当部長
監事	
生活クラブ生活協同組合神奈川	柳下信宏 常勤理事
株式会社市民風力発電	滝本しのぶ 取締役

社員総会の後、第一回臨時理事会を行い、互選により半澤彰浩理事が代表理事に選任されました。

## 社員総会記念学習会を行いました。



城南信用金庫相談役  
吉原 毅氏

社員総会の後、城南信用金庫の相談役(前理事長)、吉原毅氏を講師にお招きし「協同組合としての城南信用金庫の脱原発・自然エネルギー推進の取組ビジョン」というテーマで学習会を行いました。立て板に水を流す如くお話しされましたが、その言葉の端々に温かさや情熱を感じる時間となりました。お話しされた内容を少しご紹介いたします。

- 信用金庫のルーツは 1844 年にイギリスのロジデールに創設された世界最初の協同組合「公正先駆者組合」で、生活協同組合と同様に相互扶助のための共同組織運動である。
- お金は人を自由にするものではあるが、近代市場経済はお金の弊害のほうが目立ってきてしまっている。目先の利益ばかりを求め道徳倫理も崩壊してしまっている例もある。多くのお金を得ようと合理的な決定をしようとしてもそればかりではうまくいかない。様々な場で経営者の方にお会いする機会があるが、占いや神頼みをする人が意外に多い。それは、神仏にすがるとい事が、たくさんの人々とかかわりを持つ、という意味なのだと思う。人々と助け合わなければ経営はうまくいかないという事だ。
- 健全な未来を作るために、金融機関がある。
- 原子力発電はすでに時代遅れであり、コスト面からも全く採算が合わない事業だという事ははっきりした。一方、太陽パネルのコストは、工事代金や、土木作業面も含めどんどん下がっている。
- 千葉県匝瑳市で、農地でソーラーシェアリングを行う事業をしている。営農型太陽光発電による次世代の農業モデルの提案だ。一般的な太陽光パネルより細長いパネルを使い、大型農業機械も入れる高さに設置し、その中(遮光率 33%以下)で農作物を育てる方法。そうした環境に向く作物も多く、暑い時期には農作業も楽になるというメリットもある。売電で収入も多くなり、日本の農業が抱える多くの問題の解決策になる。
- 自然エネルギーは経済効果が高いことをもっと多くの人に知ってもらい、意識を変えていくことが大切。融資しても十分採算の合う事業なので、どんどん進めていきたい。



吉原氏のユーモアあふれる熱いお話に、時には会場が笑い声であふれました。

学習会の参加者からは、「自然エネルギーの接続認定がなかなか出ないのは残念で、解決出来たらよいと思う。」「オフグリッド(自宅などで太陽光パネルなどで発電し、送電線とつながず電力会社と契約しない事)で暮らしたい。そうした設備投資の融資をしてくれる金融機関があるといいと思う。」「再エネでいちど儲ければ興味関心のない人も意識が変わる、というアイデアは目から鱗だった。」という感想が聞かれました。

## 生活クラブ東京 タラーメン醤油味開発秘話

生活クラブが脱原発の対案として持続可能な自然エネルギーの発電に取組み、風車の建設を秋田県にかほ市に決めたことからおつきあいが始まりましたが、生活クラブにとって縁のある鳥海山の北側の町ということでより親しみを感じます。自然豊かなにかほ市で風車『夢風』が発電するクリーンな電気を、昨年度から(株)生活クラブエナジーを通じて使えるようになったことをとても嬉しく思っています。





そして『夢風』を縁とした地域間連携ということで始まった「夢風ブランド」の開発で、伊藤製麺所の伊藤さんと共にタラーメンの開発に取り組んだことは、とても貴重な体験でした。生活クラブの基準をクリアできるのか？と心配しながらのスタートでしたが、麺に関しては、かん水や色についての要望に対し試作を繰り返して下さり、スープは日南工業株さんがこれまで抜いたことのないアミノ酸不使用のスープ作りにチャレンジしてもらいました。従来の塩味に加え醤油味、みそ味の試作品を作って下さって、多様な選択肢の中から検討した結果、とてもおいしい「タラーメン醤油味」が誕生しました。にかほ市にとっても生活クラブにとってもプラスになるような物を作りたいという思いで何度も試食して作った夢風ブランド「タラーメン醤油味」であることをアピールしながら、生活クラブ東京では年間約 10 回の取組みでファンが増えています。

乾麺で保存性が良いので、常備している方も多いようです。コシがあって美味しい麺は、なべ物のしめにぴったり！暑い時期には冷やしつけ麺もおすすめです。



北東京生活クラブ生協 理事 岡部和代

## 教えて、小林さん！風車基礎知識

今月より、NPO 法人北海道グリーンファンドの小林ユミさんに風力発電の基礎知識を隔月で執筆していただきます。

風車にとって欠かせないものそれは「風」です。風車はのんびり気ままに回っているように見えますが、いつも風を探しています。ナセルの上に風向風速計を設置しており、常に風の状況を把握して、風車の向きを制御することにより、風を受けたブレードが回転し、発電しています。

発電に必要な風の強さは風車の機種によって異なります。夢風は毎秒4メートルの風を受けて発電を始めます。ブレードの1分間の回転数は制御されていて、風が強く吹いても、それ以上、回転しすぎることはありません。また毎秒 25 メートルを超える強い風が吹いた場合、ブレードの角度を調整して風を逃がし、風車を減速・停止させます。



風車夢風の風向風速計

「風車の発電は風の状態に左右され、不安定で役に立たない」日本ではそういわれがちですが、気象予測システムの進化などにより、現在、欧州で風車は原発 40 基分もの電力を生産するほどの基幹電源としての地位を占め、今後も大きな伸びが期待されています。

さあ、今日の夢風は日本海、鳥海山、何を見ながら回っているのでしょうか。

夢風にも地球の未来にも良い風が吹きますように。

※NPO 法人北海道グリーンファンドとは、誰でも無理なく地球環境の保全に貢献できる「グリーン電気料金制度」と再生可能な自然エネルギーによる市民共同発電所(市民風車など)づくり、省エネルギーの普及に取り組む NPO 法人です。生活クラブ北海道での泊原発反対運動を経て、現理事長の鈴木亨氏が 1999 年に発足しました。